

「乗る港」へ
クルーズ施策の新たなステージ

シリーズ市政の「今」。今回は、京都舞鶴港に入港するクルーズ客船に関連した話題を中心に伝えします。



今年32回舞鶴へ入港する大型クルーズ客船「コスタ ネオロマンチカ」

◆「発着港・舞鶴」

京都舞鶴港西港に、大型クルーズ客船が停泊している様子が頻繁に見られるようになりました。今年は年間で39回の入港が予定されており、4月～10月にかけて毎週欠かすことなく船が入ってきています。外国船籍のクルーズ客船が舞鶴に来るようになって4年。その様子に変化が起り始めていることにお気付きでしょうか。

これまで京都舞鶴港に入る客船は、舞鶴や周辺地域を観光するために立ち寄る「寄港」がメインでしたが、今年は、舞鶴が「発着港」となるクルーズが大半を占めており、その乗客のほとんどが日本人です。船の入港日には西舞鶴駅に多くの乗船客が降り立ち、ふ頭にはマイカーで乗客が乗り付ける姿が見られます。

市は、京都府などと連携しクルーズ客船の誘致活動に取り組んできました。こ

地域が連携してクルーズを盛り上げることを確認しました。

◆乗る前、降りた後の観光

クルーズ客船の発着地となったことで、京都舞鶴港には市内や府北部からだけでなく、近畿一円や東海、四国、中国地方からの乗客も集まるようになりました。その多くは乗船前や下船後に、舞鶴や「海の京都エリア」の観光を併せて希望されています。舞鶴は単なる発着地としてではなく、観光地の一つでもあるのです。

一方、舞鶴が寄港地である乗客に対しては、地域の魅力を伝えるべくオープンシアターを市と「海の京都DMO（※）」が連携して提案していますが、今後さらに「見る」「食べる」「体験する」「思い出に残る」など観光客のさまざまなニーズに対応する必要があると考えています。

◆変わるおもてなし

おもてなしの場面でも、新たな動きが生まれています。着物を着て踊りを披露する「舞鶴小町踊り子隊」が結成され、日本人にも外国人にも喜ばれているほ

れは、クルーズ客船の入港が舞鶴市の観光産業や交流人口の拡大につながる絶好の機会と捉えているからです。世界的にもクルーズ市場は広がりを見せており、日本においても低価格で乗りやすいクルーズプランが登場するなど、今後ますます身近な旅行の形として利用者の増加が見込まれています。

今年催行されている日本海周遊クルーズは舞鶴で乗下船できるプランであるため、港に大型無料駐車場を設けて、車を停めてクルーズ旅行に出かける「ドライブ&クルーズ」を提唱し、高速道路網の完成によって関西圏からぐっと近くなったことや乗船に便利な港であることを積極的にPRしているところです。

また、4月末には「京都舞鶴港クルーズキャラバン」を実施。多々見市長や府北部地域の経済・観光関係者が、日本海周遊クルーズの各寄港地で、舞鶴をはじめとする「海の京都エリア」の魅力を直接PRするとともに、日本海側の各

か、幼稚園児の出迎えは客層の中心を占めるシニア層から人気を博しています。

客船の入港回数が増えるにつれて、入港時間に併せた営業体制やメニューを設定する飲食店、外国人観光客向けに外国語のメニューやリーフレットを設置する店舗も見られるなど、この機会をビジネスチャンスと捉え、新たなチャレンジをする事業者も増えてきています。

◆「関西の海の玄関口」に

舞鶴の背後には、2千万人という巨大な人口圏をもつ関西が控えています。舞鶴から乗下船できる日本海クルーズの魅力やPRし、多くの乗船客を舞鶴に呼び込むことは、市内を訪れる観光客の増加にもつながります。日本各地の港がクルーズ客船の誘致にしのぎを削る中で、京都舞鶴港が今後もクルーズ港として成長するためには、発着港としての利便性をさらに高め、舞鶴からの乗船客を安定的に確保していく必要があります。

地元から非日常のクルーズへ出かける時代がやってきました。乗船ゲートはすぐ近くにありません。ぜひこの機会に、読者の皆さんも舞鶴からの船旅をご検討されてはいかがでしょうか。



京都舞鶴港での乗船手続き



「舞鶴小町踊り子隊」による歓迎パフォーマンス



港に隣接している大型無料駐車場



下船する乗客を出迎える園児たち